

# 市長の まちづくりメッセージ



市役所では、毎月の初日に「市長のまちづくりメッセージ」を放送しています。市民の皆さんと『共創・協働のまちづくり』を進めていくため、その一部を掲載します。

「市民の目線に立つとは」  
について

先日、一通の手紙をいただきました。それは神籠石サミットの開催を機に本州唯一の神籠石を見たいと石城山を訪ねようとしたところ、道路案内が十分でなく、あちこちうるつき、たくさんの方に聞いてようやく石城山に到着し、神籠石を探したが、それらしい石は見つからず一時間後あきめて引き返したという内容でした。

実際には主要県道からの入口は、光市側・田布施町側ともに案内板は設置してあります。しかし案内板が設置されていても、このたびのように、初めての人が訪ねて場所が分からなかったことは紛れもない事実です。この方は石城山に来られたにもかかわらず目的を達成する、すなわち神籠石を見ることが出来なかったのです。

皆さん、この手紙は私たちに大きな課題を提示しています。私たちはともすれば、「自分が分かるのだから当然、市民の皆さんにも分かっていただ

けるだろう」となどと、役所の目線や理屈だけで独善的に物事を捉えがちです。

しかし複雑多様化する行政ニーズに対応するためには、豊富な知識と広い視野が必要となります。

私たちはプロの公務員として常に市民の目線に立ち、市民サービスやニーズを把握し、形だけでなく分かりやすく実効ある仕事を展開していくことが求められています。このことはこれからの市政推進上、市民からもっとも求められる点でもあり、改革・改善の重要な視点であると思います。

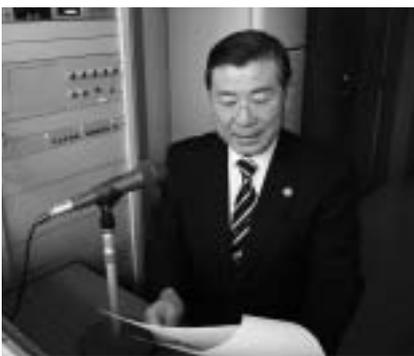
「退任にあたって最後に贈る言葉」  
について

私は、光市長に就任以来、「改革・刷新」、「公平・公正」、「有位性を生かしたまちづくり」の三点を基本として14年にわたり市政を担当してきました。この間、絶えず「改革に終わりはない」という強い信念のもと、私自身敏感に市政に対処してきました。振り返ってみますと、

「おっばい都市宣言」や、「自然敬愛都市宣言」、「安全・安心都市宣言」など、全国にも例をみない三つの都市宣言をはじめ、全国に先駆けての「総合福祉センター（あいばく光）」の整備、「冠山総合公園」の早期着工による一部供用開始、さらに「公民館の自主運営」、「光地域広域水道事業の凍結」など、皆さんとともにさまざまな重要案件に真正面から取り組んできました。

また、平成16年10月には市民や議会の皆様のご尽力の下、さまざまな困難を乗り越え、全国に誇れる光市と大和町の合併を果たしました。

最後の  
「市長のまちづくりメッセージ」  
を放送する、末岡泰義前光市長



新市誕生から丸4年が経過し、着実にまち全体が一体化しつつあると感じています。

学校の耐震化、三島温泉健康交流施設事業や二つの公立病院問題などの課題もありますが、新市建設計画を発展的に継承した総合計画に基づき、着実な施策の推進を図ることが大切だと考えています。

さて、今まで皆さんに多くのことを伝えてきましたが、今回が最後になります。そこで私から皆さんへ次の言葉を贈ります。

「下り坂に向かう兆しは最盛期に現れ、新しいものの胎動は衰退の極（きわみ）に生じる」という言葉です。順調なときには一層気を引き締めて異変に備え、難関に差し掛かったときはひたすら耐え、初志を貫徹しなければならぬという意味です。この言葉の意味を充分理解しておいてください。

市長選挙並びに市議会議員選挙も終わり、14日から新たなリーダーの下で、まちづくりがスタートします。職員の皆さんは、しっかりと新しい市長を支え、市政推進に引き続き精励してください。